

不動産を営む株式会社アイショウの専務取締役を務める勝又源紀(もとのり)さんには、多彩な顔があります。異業種の仲間とともに、市街地でのイベントや空きスペースの有効活用など、これまでにない楽しいことを街に仕掛ける名人。「最初は興味がなかった」というまちづくり活動へ勝又さんを導いたもの、活動への思いや目指す街の姿を聞きました。



「外にいるのが好き」と話す勝又さん。「歩道のベンチでコーヒーを飲んで、居合わせた人と仲良くなるなんて、いいと思いませんか?」

現状に危機感 「今までにないことを」

地元・仙台の大学を出て東京で不動産業に就いた勝又さんが、家業であるアイショウに入ったのは2011年1月、25歳のとき。直後に東日本大震災が起きました。

それまで空室率が5割ほどあった所有ビルが、震災後一気に満室になり、賃貸物件も急速に埋まったそう。「安堵感より、この波が引いたらどうなってしまうのか、と怖くなりました。仙台圏の本来の経済力と、今後予想される人口減を冷静に分析し、業界の将来に危機感を抱いた勝又さん。「今までにないことをしなければ」と奮起します。

屋上や軒先、ビル壁といった空きスペースを自社で活用しよう、離島を貸し切るパーティはどうだ、ユニークなゲストハウスを作ろうか…アイデアは湧くものの、法規制などさまざまなハードルがあり実現は遠く思えたそう。そこで勝又さんがしたのは、業種も年齢も問わず“とにかく人に会う”こと。「父親ほどの年齢の人しかいない会合にも、「ここに行けば目立つかな」と下心つきで飛び込んだとか。会う人会う人に夢を語っては「それ、面白いね」と可愛がられ、業種を超えた視点や考え方を学びました。

まちづくりの視点に学ぶ 「点から線、さらに面へ」

人脈は広がるものの突破口が見つからず暗中模索していたところに、仙台市が開く「せんだいリノベーションまちづくり」のスクールへ誘いがかりました。公共空間や民間不動産の利活用によって都市部に賑わいを生み出す、近年全国的に広まっている取り組みです。

当初はあまり興味がなく、「自分にプラスになるの

異業種間コラボで 街の使い方を変える!



①DAYOUT!! ②TOHOKU COFFEE STAND FES「街の庭師」のメンバーの一人である伊奈 伸介さん ③LIVE+RALLY PARK

街なかを笑顔でいっぱい「ワクワク仕掛け人」が駆ける



④The Roof Sendai 多彩なイベントで街を楽しく。「The Roof Sendai」はアイショウがビル屋上で運営するレンタルスペース(写真提供:アイショウSDC)

か」と半信半疑だった勝又さんですが、受講生が市街地の公園で開いたイベントに大きな可能性を感じたといいます。それは、補助金を受けずに収益を上げる仕組みが見事に機能していたから。「地域への波及効果を生みつつ、事業として成り立っていた。面白い、と思いました」。

スクールをきっかけに海外視察をするなどまちづくりに関心を深め、見識を広めた勝又さん。学ぼうと、本業のビル開発とまちづくりの関係性が見えてきたそう。

特に「点(核となるスポット)をつなげて線(ストリート)にし、面(まち)へ展開する」という考え方は、ビル開発にも通じ、ふに落ちたとか。「ビル内のテナント構成も、エリア内でのビル展開も、“点”だけで考えてはダメ。“面”を的確に捉えないと。社長である父がいつも言うことです」。また、まちづくりの成功例の視察では、「エリアの魅力を高めることが不動産の価値につながる」と実感。これらの学びを原点に、勝又さんの「街をワクワクさせる活動」が始まりました。

「パブリックを開放」 その真意とは

その一つが、2017年に設立したセンダイディベロップメントコミッション株式会社(SDC)です。まちづくりに関わる多業種のメンバーが集まり、学生もインターンとして参加。勝又さんは取締役を務めます。

街の賑わいを生み出す事業やコンサルティングを業務とし、コンセプトは「パブリックを開放する」。でも「パブリック」、つまり「公共」のものは、そもそも街に住む人に開放されているのでは…? 「それはさすがですね、でも公園などの公共空間って実はあまり使われていないと思いませんか」と勝又さん。「自由に使える“真のパブリック”にしたいんです」。

青葉区の肴町公園でワークショップや絵本

図書館を開いた「DAYOUT!!」(写真①)、定禅寺通りに東北のコーヒー専門店が集結した「TOHOKU COFFEE STAND FES」(写真②・⑤)などを成功させ、現在はこれらを含め7つの催しを「GREEN LOOP SENDAI」として展開。大人気イベントに成長し、市民がドリンク片手に気ままな街歩きを楽しむ光景が定着しました。また仙台市の委託事業として、東北の魅力を発信する木造施設「LIVE+RALLY PARK(ライブラリーパーク)」(写真③)を勾当台公園に期間限定で運営し、好評を得たのも、記憶に新しいところ。



⑤出店者との会話も楽しいコーヒーフェス。有名店の飲み比べができる好評だ(写真提供:SDC)

SDCの活動は、イベントの集客だけでなく、街を回遊する人口を増やし日常の賑わいを生むことが目的です。肴町公園では、イベントで喜ばれた絵本棚を、市との協議を経て常設化(写真⑥)。いつでも読んだり借りたりできるため、最近では保育所の散歩コースにもなっていると、「いつも人々が外に出て笑顔で行き交っているのが、僕の考える“いい街”。眠っている“パブリック”を起こして街の使い方を広げたい」と、目を輝かせます。



⑥肴町公園に常設した絵本棚。絵本を寄贈してくれる人もあるという



「街の庭師」が外構を手掛けたビル。空調設備や配管がむき出しでいかにも裏口といった感じのリニューアル前(左)。木製の目隠しとバラのアーチを施し、見違えるほど美しく生まれ変わった(右)



⑦「街の庭師」メンバー。左から川上謙さん、佐藤良さん、勝又さん、山田剛さん。会話に笑いが絶えない

シェフの佐藤良さんが「みんな個性が強いけど目指すものが同じで軸がブレない。だから続くんじゃないかな」とまとめてくれました。

今、仙台が熱い! まちづくりの流れを育てよう

「まちづくりの活動が自社の利益に直結するとは考えていない」と話す勝又さん。それでも熱心に取り組むのは「街が面白くなれば、関係人口が増えて街の価値が上がり、結果的に不動産を含めた仙台の商売が潤う」と考えるから。「だから、今仙台に起きているまちづくりの熱気を冷ましたくない」と力強く言い切ります。

本業では、新しいタイプの賃貸情報ポータルサイトを構想中。ライフスタイルや趣味に合わせてリノベーションできる住まいなどを紹介するとい、「暮らしをデザインする需要を掘り起こし、住宅関連業界全体を活かす」と話します。地元の同業他社と共同での運用を目指すそう。「大手に負けないためには、地域密着性と独自性を打ち出さなければ」と語る表情に、家業を担っていく責任感がにじみます。

不動産業とまちづくり活動を両輪に疾走する勝又さん。「先輩方や仲間にも恵まれてやってこられた」と何度も口にしました。仲間とともに次は何を仕掛けるのか、ぜひ注目を。

- 株式会社アイショウ
1981年設立。仙台に拠点を置く不動産会社。不動産販売・不動産コンサルティング・ビル再生などを手掛ける。
- センダイディベロップメントコミッション株式会社
2017年設立。仙台を拠点に、街中に賑わいを創出するイベントなどを運営している。

ウェブ版にて公開中!

SDCの活動に参加した大学生・佐藤優作さんと、学生時代に参加したのち同社へ就職した豊島聡さんへインタビューしました。紙面に登場してくれた「街の庭師」メンバーの声も紹介します。



仙台・宮城の気になるBGMをお届け!

【ウェブマガジンコンテンツ】●男女デュオ「ラッキー・オールドサン」ライブレポート@誰も知らない劇場(旧桜井薬局セントラルホール) ●「宮城看板放浪記」ほっとする実家のような居酒屋「ごん太」 ●「印度カレー子エッセイ」私たち日本人が思うカレーはカレーじゃなかった?! 「境界的豆カレー」のレシピを公開中 ●宮城在住漫画家・宮崎夏次系が描くBGMのカバーイラスト「宮城県美術館のアリスの庭で大きな猫の彫刻と腕立て伏せ対決!」

毎日更新中!

BGM仙台

検索



最新情報はBGM公式SNSでチェック!



@bgm.official



@bgm_m_official



@bgm_m_official

